

# ワクチン順調でも抑制困難

## 筑波大教授試算

国内で新型コロナウイルス変異株による感染拡大が続くと、ワクチン接種が進んでも、東京都内ではこれまでの感染規模を上回る可能性があるとの試算を、倉橋節也・筑波大学教授（社会システムーション学）がまとめた。倉橋教授は「変異株への監視を強めるとともに、特に首都圏の人たちは万全を避けるなどの予防策は必要だ」と訴える。

ウイルスの変異とは、増殖する過程で遺伝情報が変化するのだ。変異の頻度は流行規模によって変動し、新型コロナは平均して2週間に1回程度のペースで変異している。世界的に警戒されているのは、主に英国、南アフリカ、ブラジル由来の変異株だ。いずれも感染の足がかりとなるウイルス表面の「ス

## 変異株拡大なら感染加速

パイクたんぱく質」が変化し、従来よりも感染力が強いとされる。南アやブラジルの変異株は、免疫が効きにくくなる可能性が指摘される。

こうした変異株の感染が拡大すると、どんな事態が起りうるのか。倉橋教授は、英國と南ア由来の変異株について、東京都内の1日当たりの新規感染者数がどのように推移するか、ワクチン接種の影響を考慮して試算した。

試算では、感染者1人が平均何人に感染させるかを示す「実効再生産数」は、最初の緊急事態宣言解除後の2020年6月1日以降と同じように推移し、人の流れも同じペースで増加するとした。3月21日時点の東京都内の変異株感染者は10人と仮定。医療従事者以外へのワクチン接種がない限り、感染を抑え込むことは難しくなるのではないか」と指摘する。【岩崎歩】

その結果、英國株の場合は、6月以降増加傾向が続き、9月上旬には1日当たりの感染者が英國株だけで1000人超との結果になった。南ア株については、ワクチンの効果が50%弱ると仮定。8月下旬には1000人を超えて、その後も増加の一途をたどる

試算された。従来流行しているウイルスの感染拡大も続けるならば、全体の感染者数はさらに多くなる。

倉橋教授は「変異株が拡大すれば、感染者数は加速度的に増える可能性がある。ワクチン接種が進んでも外出を制限するなど厳しい措置を取らざれば、感染者数は加速度的に増える可能性がある。ワクチン接種が進んでも外出を制限するなど厳しい措置を取らざれば、感染者数は加速度的に増える可能性がある。ワクチ